

令和 6(2024)年度
授業評価アンケート

◆ 1 年次前期

1 年次前期に実施した全科目の授業について、アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.64 点であった。

最も高い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」で、3.73 点であり、次に「③この授業にどのくらい主体的・積極的に取り組むことができましたか」で、3.67 点、「⑥この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」で、3.66 点であった。

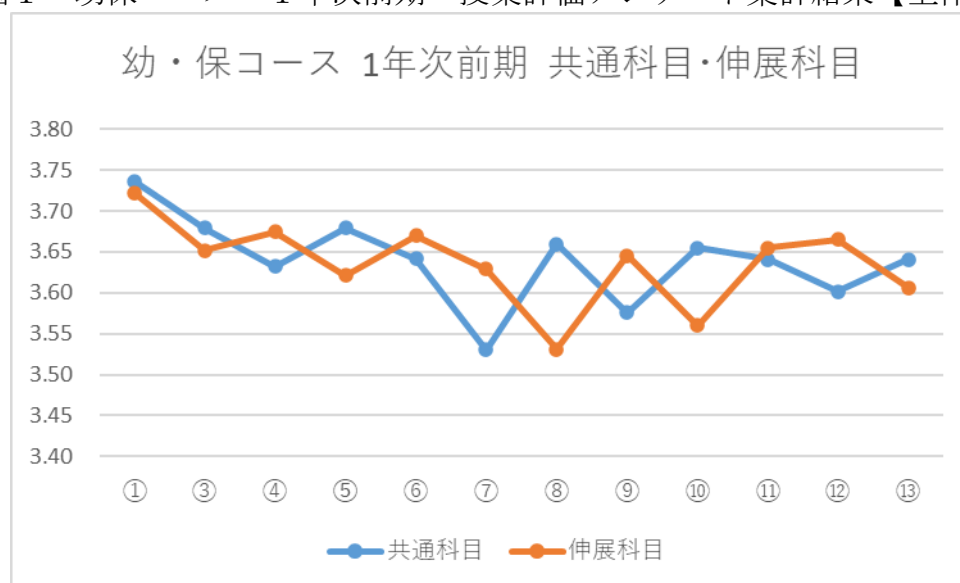
最も低い評価項目は、「⑦実際の授業がシラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」で、3.58 点であり、次いで「⑧到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」で、3.60 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が 30 分未満 52.3%、30 分以上 60 分未満 24.4%、60 分以上 90 分(120 分)未満 9.3%、90 分(120 分)以上 14.0%であった。共通科目は、30 分未満 35.3%、30 分以上 60 分未満 31.4%、60 分以上 90 分(120 分)未満 12.7%、90 分(120)以上 20.6%であった。伸展科目は、30 分未満 40.6%、30 分以上 60 分未満 34.0%、60 分以上 90 分(120 分)未満 11.5%、90 分(120 分)以上 13.9%であった。

表 1 幼保コース 1 年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
共通科目	3.74	3.68	3.63	3.68	3.64	3.53	3.66	3.58	3.66	3.64	3.60	3.64	3.64
伸展科目	3.72	3.65	3.67	3.62	3.67	3.63	3.53	3.65	3.56	3.66	3.66	3.61	3.64
平均	3.73	3.67	3.65	3.65	3.66	3.58	3.60	3.61	3.61	3.65	3.63	3.62	3.64

図 1 幼保コース 1 年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】



◆1 年次後期

授業評価アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.68 点であった。最も高い評価項目は、「⑨授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」で、3.75 点であった。次に「④この授業で学ぶ内容の意義や必要性を十分に理解できましたか」で、3.73 点であり、次いで、「⑦実際の授業がシラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」で、3.70 点であった。

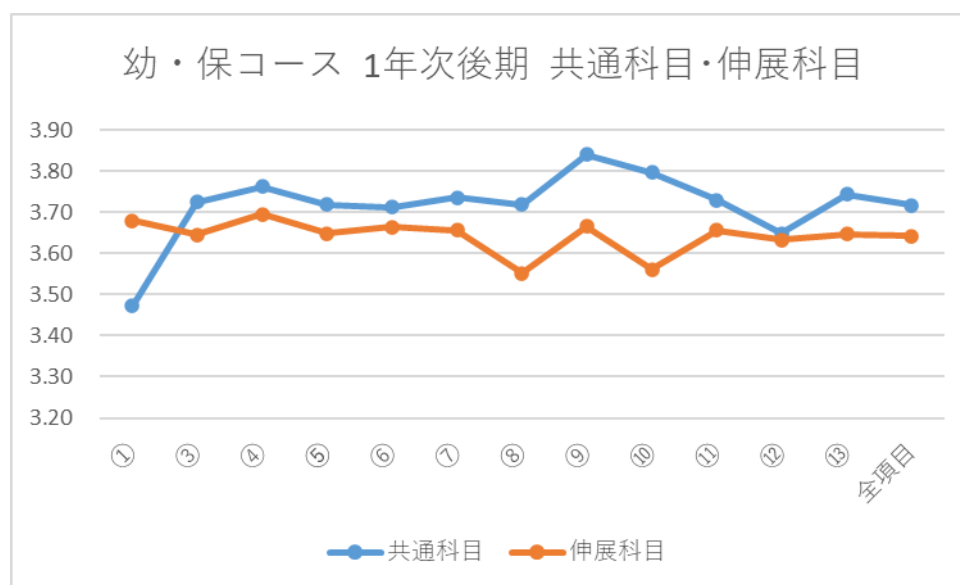
最も低い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」で、3.58 点であった。次に、「⑧到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」で、3.63 点であり、次いで、「⑫教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役立ったと思いますか」で、3.64 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が 30 分未満 48.7%、30 分以上 60 分未満 24.3%、60 分以上 90 分(120 分)未満 11.7%、90 分(120 分)以上 15.3%であった。共通科目は、30 分未満 51.8%、30 分以上 60 分未満 10.8%、60 分以上 90 分(120 分)未満 10.8%、90 分(120 分)以上 26.5%であった。伸展科目は、30 分未満 37.3%、30 分以上 60 分未満 26.0%、60 分以上 90 分(120 分)未満 14.4%、90 分(120 分)以上 22.3%であった。

表 1 幼保コース 1 年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
共通科目	3.47	3.73	3.76	3.72	3.71	3.74	3.72	3.84	3.80	3.73	3.65	3.74	3.72
伸展科目	3.68	3.65	3.70	3.65	3.66	3.66	3.55	3.67	3.56	3.66	3.63	3.65	3.64
平均	3.58	3.69	3.73	3.68	3.69	3.70	3.63	3.75	3.68	3.69	3.64	3.69	3.68

図 1 幼保コース 1 年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】



◆ 2 年次前期

授業評価アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.61 点であった。最も高い評価項目は、「⑨授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」で、3.71 点であった。次に、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」で、3.68 点であり、次いで、「⑪教員の説明が、わかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」で、3.64 点であった。

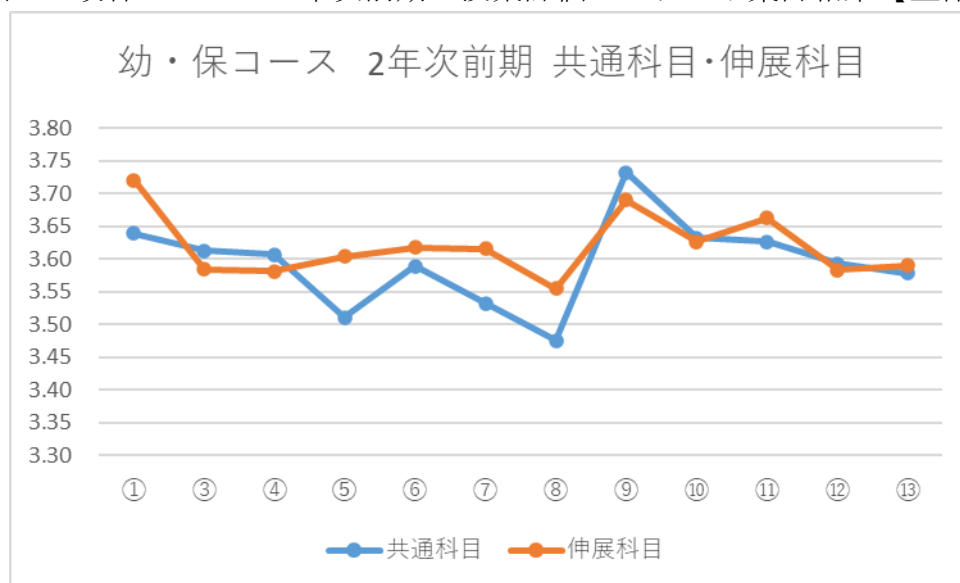
最も低い評価項目は、「⑧到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」で、3.51 点であった。次に、「⑤この授業の到達目標を意識しながら授業を受けることができましたか」で、3.56 点であり、次いで、「⑦実際の授業がシラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」で、3.57 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が 30 分未満 35.6%、30 分以上 60 分未満 25.8%、60 分以上 90 分(120 分)未満 22.0%、90 分(120 分)以上 16.7%であった。共通科目は、30 分未満 38.7%、30 分以上 60 分未満 30.0%、60 分以上 90 分(120 分)未満 17.3%、90 分(120 分)以上 14.0%であった。伸展科目は、30 分未満 33.3%、30 分以上 60 分未満 22.3%、60 分以上 90 分(120 分)未満 26.9%、90 分(120 分)以上 17.5%であった。

表 1 幼保コース 2年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
共通科目	3.64	3.61	3.61	3.51	3.59	3.53	3.47	3.73	3.63	3.63	3.59	3.58	3.59
伸展科目	3.72	3.58	3.58	3.60	3.62	3.62	3.55	3.69	3.63	3.66	3.58	3.59	3.62
平均	3.68	3.60	3.59	3.56	3.60	3.57	3.51	3.71	3.63	3.64	3.59	3.58	3.61

図 1 幼保コース 2年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】



◆ 2 年次後期

授業評価アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.49 点であった。最も高い評価項目は、「⑨授業のペースに追いつけないと感じることがどれくらいありましたか」で、3.72 点であった。次に、「⑩この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」で、3.61 点であり、次いで、「⑪教員の説明が、わかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」で、3.50 点であった。

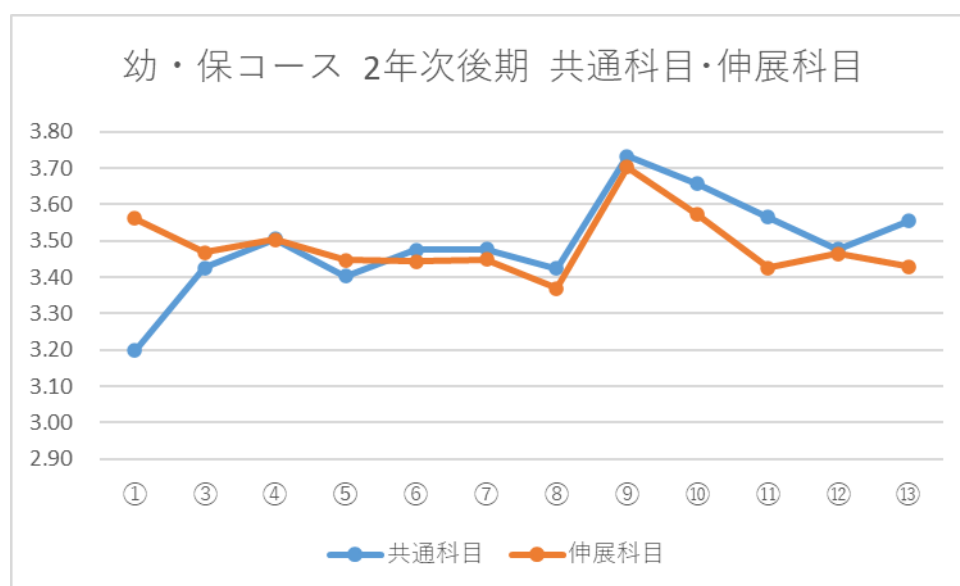
最も低い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」で、3.38 点であった。次に、「⑧到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」で、3.40 点であり、次いで、「⑤この授業の到達目標を意識しながら授業を受けることができましたか」で、3.43 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が 30 分未満 64.0%、30 分以上 60 分未満 12.0%、60 分以上 90 分(120 分)未満 14.0%、90 分(120 分)以上 10.0%であった。共通科目は、30 分未満 50.7%、30 分以上 60 分未満 21.8%、60 分以上 90 分(120 分)未満 14.8%、90 分(120 分)以上 12.7%であった。伸展科目は、30 分未満 40.7%、30 分以上 60 分未満 24.4%、60 分以上 90 分(120 分)未満 23.7%、90 分(120 分)以上 11.1%であった。

表 1 幼保コース 2年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
共通科目	3.20	3.43	3.51	3.40	3.48	3.48	3.42	3.73	3.66	3.56	3.48	3.56	3.49
伸展科目	3.56	3.47	3.50	3.45	3.44	3.45	3.37	3.70	3.57	3.43	3.47	3.43	3.49
平均	3.38	3.45	3.50	3.43	3.46	3.46	3.40	3.72	3.61	3.50	3.47	3.49	3.49

図 1 幼保コース 2年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】



◆ 1 年次前期

1 年次前期終了時におけるディプロマ・ポリシーの達成度を調査した結果、それぞれの目指す姿の平均値は、4 点満点中「きづく」3.4 点（84.9%）、「かかわる」3.3 点（81.5%）、「みがく」3.3 点（81.8%）であり、全体としては 3.3 点（82.5%）の達成度が示された。

「きづく」で最も高い評価を示したのは、「②一人一人の生命や身体の安全を確保するとともに、個性や思いを大切にすることの気持ちをもっている」（3.8 点）であり、次に「①こどもの権利や多様な個性を尊重する姿勢をもち、こどもの視点を想像しながら、様々なこどもの姿を感じとることができる」「③社会にある人権問題、学校における人権教育の必要性等について理解している」（3.5 点）となった。反対に、「⑥事故、事件や災害発生等の緊急時の対応・体制について理解している」（3.2 点）で平均値を下回る結果となっている。

「かかわる」では、「②社会に出るために必要な挨拶や言葉遣い、身だしなみを身につけている」（3.5 点）で最も高い値を示したが、「⑧学校保健委員会等、保健組織活動の意義や目的、内容等を理解している」・「⑩学習指導要領に示された各教科等の保健に関する内容を理解している」では 3.1 点と平均値より低い値となった。また、養護教諭の職務全般にかかわる項目「④救急処置の内容と方法について理解している」・「⑤疾病の予防と管理に関する内容と方法について理解している」・「⑦健康相談・健康相談活動の内容と方法について理解している」・「⑨学校環境衛生の内容と方法について理解している」についても 3.1 点と平均値をやや下回る結果となっている。

「みがく」では、「②養護教諭として必要な資質・能力を身につけるために、学ぶ意欲と志をもち、自ら学んでいる」（3.5 点）・「③自分の目指す養護教諭像または養護教諭の免許を有した保育者像を描くことができる」（3.4 点）で高い値を示したが、「⑥保健室が健康情報センターとしての役割を果たすことや保健室で扱う健康情報について理解している」・「⑦学校保健の意義を踏まえた上で、学校保健計画作成の方法を理解している」の 2 項目において 3.1 点という結果となった。

【成果と課題】

まず、「きづく」②（3.8 点）、①③（3.5 点）については高い値が得られたが、学生が教育者として必要不可欠な人権感覚を持っていることを示唆する結果となったものと考えられる。

一方で、⑥の緊急時の対応・体制については 3.2 点とやや低い評価となっていることから、事故や事件、災害発生時における緊急時の対応・体制については養護教諭に求められる主務でもあるため、こどもの生命や健康・安全を保障すること、そして、子どもの個性や気持ちを尊重すること等、学校安全に関わる危機管理能力や危機管理体制とあわせて修得してほしい内容である。近年、こどもの事件・事故に関連する報道は園や学校内外を問わず世間から注視されており、学生からも高い関心が寄せられる事項のひとつである。日常茶飯事的には怒らないが緊急時に学校としてどのような対応をとるべきか。

次に「かかわる」の「②社会に出るために必要な挨拶や言葉遣い、身だしなみを身につけている」

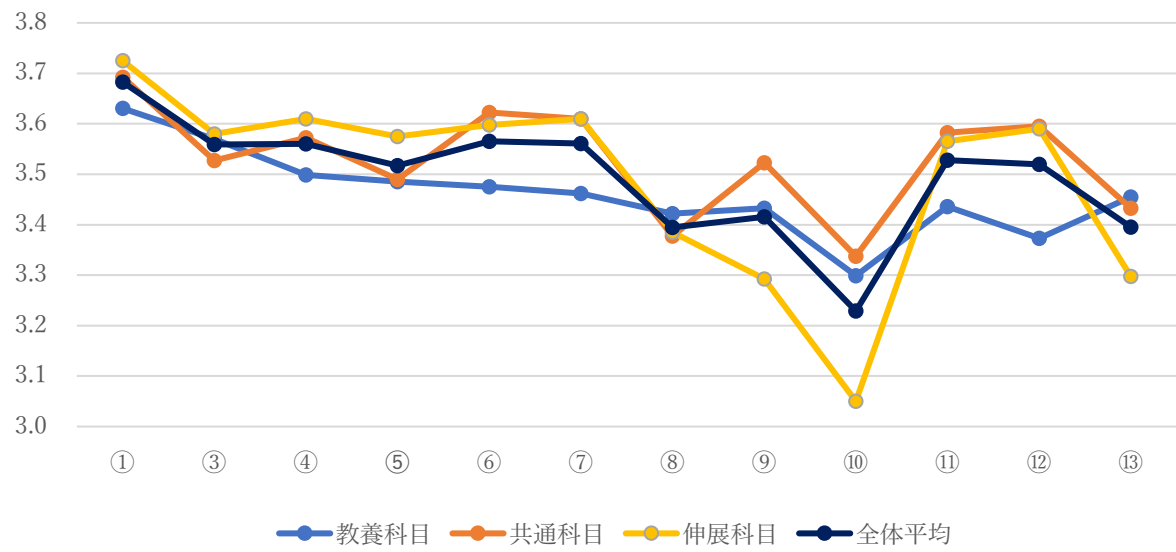
(3.5 点)の結果より、入学以降、実習生としての心構えを徐々に意識しながら姿勢を整えていることがわかる。ただし、⑧・⑩では、養護教諭としての専門知識を習得した上で児童生徒等とどのように関わっていくかが焦点となる内容であるが、「きづく」－⑧の健康診断と同様、授業評価アンケートでも理解度が低いことが示されているため、実際にその職務を通して児童生徒等と関わる以前に、その職務に関する基礎知識の習得で課題がある可能性もあると推測される。これらの内容には授業時数を多く割り当てているものの、効果的に学習効果が反映できていない結果から、再度、教授方法のあり方を模索している段階である。

最後に、「みがく」では、② (3.5 点) ③ (3.4 点) の数値より、自分が目指す養護教諭像や養護教諭について学ぶことに高い意欲を持っていることが伺える。本学では、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格に加えて養護教諭二種免許状を取得するカリキュラムとなっているが、入学前及び入学時のオリエンテーションでその意識を学生が適切に持てるよう教員側も働きかけを行わなければならないと実感している。

また、養護教諭の職務ひとつひとつについて單元ごとに学習していくものの、職務の関連性やこれらを俯瞰できるほどのスキルはこの時点では十分でないため、養護教諭と保健室との関連性や保健室が健康情報の中心的な役割を担うことについては確かに捉えられていないものと想定される。これが、「みがく」－⑥ (3.1 点) の項目に反映されたと考えられた。あわせて、⑦の学校保健計画の作成も 1 年次前期の段階で既習するものの十分に消化されていないことがわかり、養護実習、実習後の教職実践演習へと継続的に教授すべき内容と考えている。

上記ディプロマ・ポリシー達成度の値から、1 年次前期の達成目標について学生自身は達成できたものと実感していることがわかる。学生の意識としては十分な値と考えられるが、養護教諭について学習し始めたばかりで、養護教諭の職務や保健室の機能についておぼろげながら全景が見えてきた段階であり、実際にはまだ具体的な職務を的確には捉えられていないものと推察する。

養護コース 授業評価アンケート（1年前期）



◆ 1 年次後期

1 年次後期終了時におけるディプロマ・ポリシーの達成度を調査した結果、それぞれの目指す姿の平均値は、4 点満点中「きづく」3.4 点 (84.5%)、「かかわる」3.3 点 (83.1%)、「みがく」3.5 点 (87.0%) であり、全体としては 3.4 点 (84.4%) の達成度が示され、前期に比べて微増している。

「きづく」では、「②一人ひとりの特性や個性を把握することの重要性を理解している」で 3.6 点と高い値を示したが、「①養護教諭としての気づきを感じとり、様々な心身の状態や課題を捉え、養護診断を想定することができる」で 3.2 点となった。

「かかわる」では、「⑨他者との関わりやコミュニケーションの基礎・基本を身につけている」(3.6 点) で最も高い値を示したが、「⑤こどもの生涯にわたる健康の保持増進に必要な保健教育の内容と指導方法及びその評価について理解している」・「⑦学習指導要領を踏まえ、保健教育における養護教諭の役割を理解し、基礎的な知識・技術を身につけている」では 3.2 点と平均値よりやや低い値となった。

「みがく」では、全般的に高い値を示しているが、「③養護教諭になりたい、または、養護教諭の免許を有する保育者になりたいという強い意志を持っている」で 3.6 点と最も高い値となっている。

【成果と課題】

まず、「きづく」では、② (3.6 点) の結果から、前期から継続して、学生が子どもの特性や個性の把握について意識及び重要視していることがわかる。反対に、今期の最大の学習事項である“養護診断”に関わる項目①が 3.2 点となっており、養護教諭として身体面のみならず心理面・社会面・生活習慣のアセスメントを行い、総合的に判断することの難しさを感じていることがわかる。

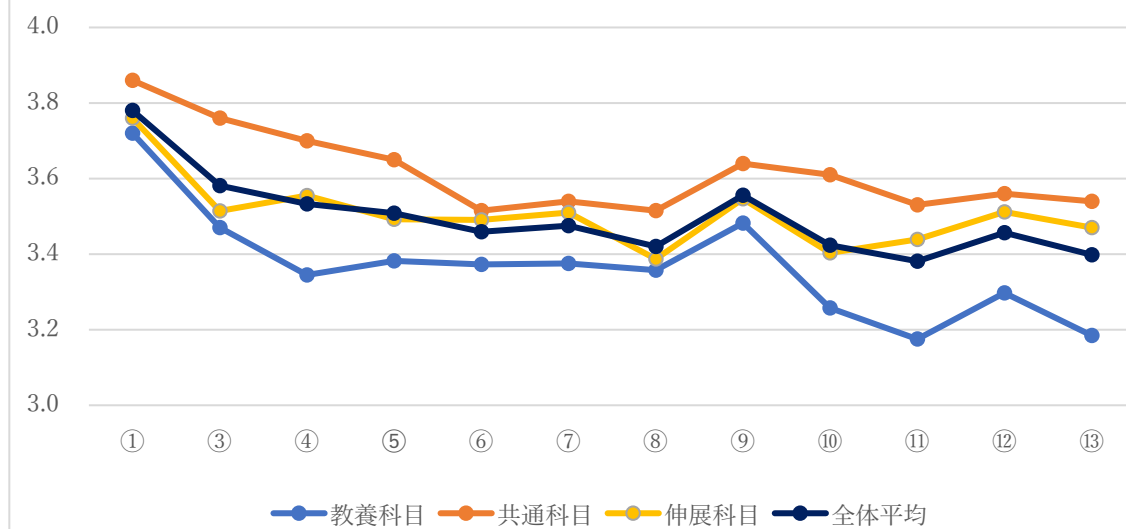
次に「かかわる」－⑨ (3.6 点)、③ (3.3 点) から、他者との関わり、特に、チーム学校としての重要性を認識できたのではないかと伺える。一方で、「きづく」の結果とも関連するが、養護教諭の職務のうち、保健教育で消極的な値を示している。保健教育では、授業設計や指導案作成等の基礎的な学習をするが、授業内かつこの期間のみで、これらの内容を完全に修得するものではなく、現場での実習や今後の教員生活の中で研鑽していく内容であるため、養護教諭の専門性を磨くべく、今後の実習や実践経験も踏まえながら理論と実践とで往還的に修得することを期待する。

最後に、「みがく」では、③ (3.6 点) 以外に全般的な数値より自分が目指す養護教諭像や高い意欲を持っていることがわかった。しかし、養護教諭の専門性を 1 年間で身につけることは容易なことではなく、1 年次の学びを 2 年次科目や実習で深めていくことが必要であると思われる。

ディプロマ・ポリシー達成度の値や上記のことから、この時期に修得すべきものについては概ねできたものと評価する。その一方で、1 年次後期では、前期に学んだ養護教諭の職務について演習を通して学習体系を組んでいるが、演習や実践をする中で実体験として養護教諭の専門性に

ついて難しいと捉えているのではないかと推測する。学生自身がわかっていたつもりでもいざ実践してみると、わからないことがわかる、あるいは自分自身ができると思っていたにもかかわらず、やってみるとできないことがわかる、という経験をする時期であるため、体験的な学びを可能な限り取り入れながら、学生の理解度や実践力を高めていきたいと考える。

養護コース 授業評価アンケート（1年後期）



◆ 2 年次前期

2 年次終了時のディプロマ・ポリシーの到達度結果のそれぞれの平均は、「きづく」3.4 点 (85.8%)、「かかわる」3.3 点 (82.4%)、「みがく」3.5 点 (86.6%) であった。

「きづく」で高い評価を示したのは、「③一人ひとりの特性や個性を把握することの重要性を理解している」および「④障がい者理解を深め、共生社会の実現の重要性を理解している」3.7 点、「⑤人権問題や人権侵害に気づき、当事者の心情を推し量ろうとしている」3.6 点であった。最も低かったのは、「②学校組織や校務分掌について理解している」3.0 点であった。

「かかわる」では、「③保健室に来室した児童生徒のニーズおよび対応の仕方について理解できている」が 3.5 点と最も高く、「⑦保健指導について児童生徒に必要な保健指導案の立案ができる」および「⑧保健指導の基礎的な知識および指導技術が身についている」がいずれも 3.1 点と低い結果となった。

「みがく」では、「④担当教員等からの指導や助言を真摯に受けとめ、最後まで責任を持ち実習へ取り組むことができた」が 3.6 点と最も高く、「①養護教諭または養護教諭の免許を有する保育者として、自身の長を伸ばす方法や課題を解決する方法を考えることができる」は、3.3 点という結果であった。一方、「③養護教諭になりたい、または、養護教諭の免許を有する保育者になりたいという熱意を持ち、実習へ主体的に取り組むことができた」「実習を通して自分自身の養護教諭としての課題を見ついたり、適性を考えたりすることができる」は、3.5 点と高い値を示している。

【成果と課題】

2 年次終了の達成度は、「きづく」「かかわる」「みがく」のすべてにおいて 3.0 点以上あることから目標は概ね達成できたものと推察する。

「きづく」では、③および④が最も高い値を示すことから、個々のもつ能力を生かし、伸ばす学修への理解と個性を尊重し、支え合うことへの重要性が理解できているものと考ええる。

「かかわる」では、③が高いことから、個々の児童生徒の問題の把握と対応が実習において満足できる働きかけであったと考える。

「みがく」では、3 週間の臨地実習を終えることができたことが達成感につながり結果に反映できたものと考ええる。

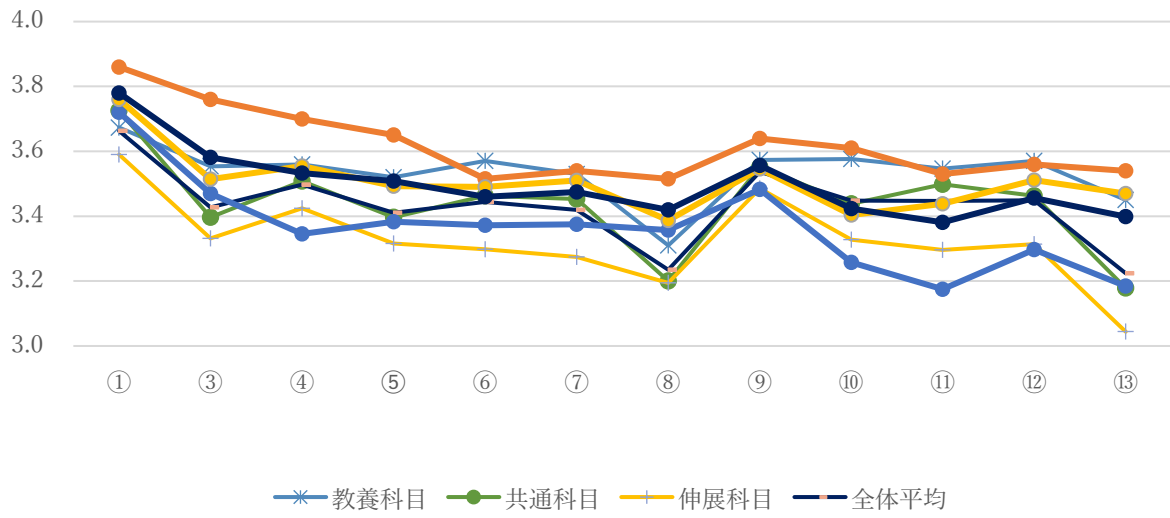
前年度（23 年次生）の 1 年次後期の達成度では、「きづく」3.2 点、「かかわる」3.2 点、「みがく」3.3 点であったが、2 年次の達成度では、すべての項目がそれを上回る高い値となっている。これは、対こどもとの関係性を築きながら取り組むことができた養護実習の経験が、学生にとって大きな学びとなり、また、自分に残された課題をみつけるきっかけとなったと考える。

最後に、前年度比較をした際、22 年次生では、「きづく」3.3 点、「かかわる」3.0 点、「みがく」3.5 点といずれにおいても 23 年次生の結果の方が高い値となっている。これは、各教員が 3 項目を念頭に置きながら授業展開したことで学生へのアプローチが効果的なものとなったのではないかと考える。

一方、②の学校組織や校務分掌についての理解については、例年同様に低い結果となった。学

校の組織等について、理解していなかったことにきづくきっかけとなる実習でもあったと考えることができる。

養護コース 授業評価アンケート（2年前期）



◆ 2 年次後期

2 年次後期終了時におけるディプロマ・ポリシーの達成度を調査した結果、それぞれの目指す姿の平均値は、4 点満点中「きづく」3.5 点（87.5%）、「かかわる」3.4 点（83.9%）、「みがく」3.5 点（87.5%）であり、全体的には 3.4 点（84.3%）と良好な結果であるとともに、1 年次後期及び 2 年次前期と同様の値を示した。2 年間の学びとしては、十分に達成できたものとする。

「きづく」では、「③体罰をしない覚悟をもち、体罰によらない指導方法について理解している」（3.8 点）を筆頭に全般的に良好な結果を示している。ただし、「①養護教諭としての基本的な知識・技術を習得し、養護教諭としての気づきを意識しながら、こどもの健康状態を判断することができる」の項目では 3.3 点にとどまり、昨年度の傾向と同様の結果となった。

「かかわる」では、「①こどもの発育・発達やこどもを取り巻く環境の理解に努め、こどもの心身の状態を適切に判断し、必要に応じて関係者と連携しながら支援や保健指導をすることができる」・「②こどもの健康課題を把握し、解決に向けた支援・指導及び助言に関する内容と方法を理解している」・「⑤健康課題のあるこどもに対して、必要な情報をもとに関係者と連携しながら支援することができる」・「⑥個や集団を指導する手法（指示やほめ方・しかり方）を身につけている」の 4 項目で 3.5 点以上を示しており、こどもの状況に応じた個別または集団の保健指導について概ね学修できたものとする。

ただし、「④諸問題への組織的な対応の重要性を理解し、その手法を身につけている」・「⑦こどもの実態の把握に努めながら、学校保健委員会等の保健組織活動の活性化について方策を考案できる」では 3.0 点という評価となっており、具体的な手法や組織的な対応については現場に出てからの修得に期待する結果となった。

「みがく」では、「②養護教諭になりたい、または、養護教諭の免許を有する保育者になりたいという強い意志を持っている」「③養護教諭としての必要な資質・能力を身につけるために、学ぶ意欲と志をもち、自ら学んでいる」について 3.8 点と高い値を維持した一方で、「①養護教諭または養護教諭の免許を有する保育者としての個性をみがくために、探求したいテーマ（生涯にわたる課題）を持つことができる」項目では 3.0 点とこのカテゴリ内では低い値になっている。これも昨年度の結果と同様の傾向を示している。

【成果と課題】

2 年次後期は、養護実習を含むすべての実習を終え、免許必修に関わるすべての科目を履修し終えることになる。教職科目の中には「教職実践演習（養護）」が設定され、養護教諭についての職務全般を統合する時期に匹敵する。

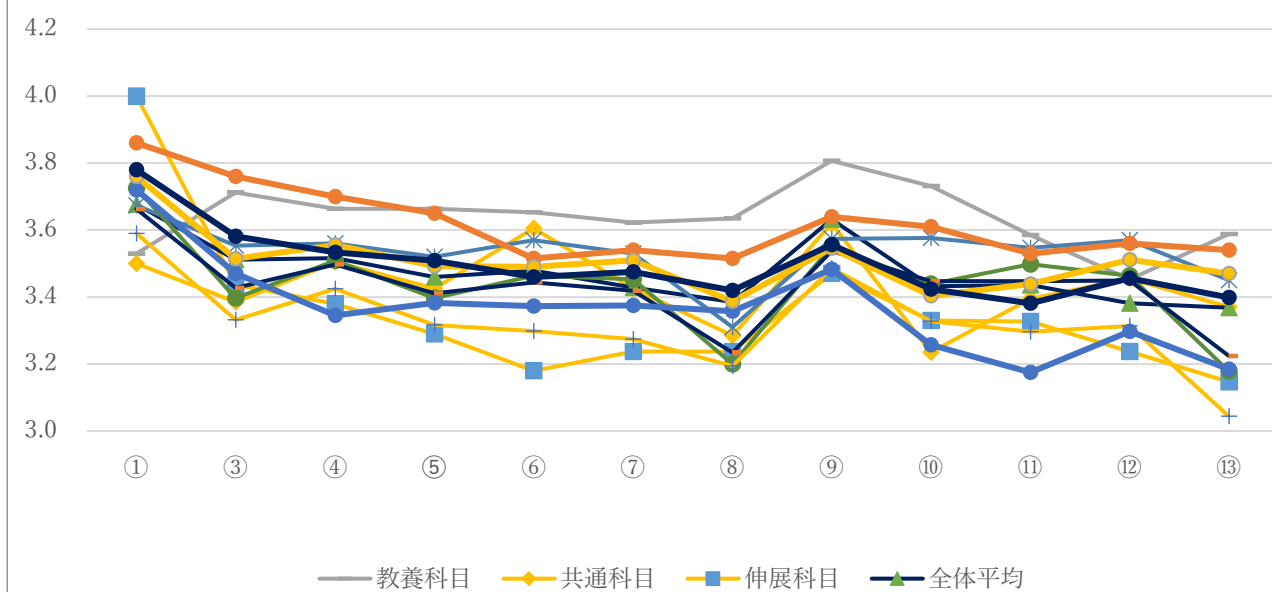
その中で、「きづく」－③の結果は、教員の資質とも言うべき、こどもの人権や権利を尊重する方策を理解し、保護者をはじめとする他者との連携を重要視することができていることを示す結果であり、養成段階において十分に評価できる。

また、このような高い意識をもつ傍ら、養護教諭としてこどもの健康課題を捉える視点を持

ち、その課題解決に向けた支援・指導及び助言に関する内容と方法を理解すること、個や集団に向けた指導方法を身につけていると感じていることは養護の本質に資することとも言えるため、学生が養護教諭の資質を十分に備えたと考えてよいものと思われる。

最後に、「みがく」－②・③の結果から、養護教諭の知識・技能を有する保育者を目指した2年間の学びの中で、学生はその強い意志を継続して努力したと感じていることがわかった。同時に、授業評価アンケートやには「大変だったが多くの学びを得た」や「保育士と同様に養護教諭としての魅力を十分に感じた2年間だった」「養護実習が一生の思い出となった」という記述が複数見られ、多様で複雑なカリキュラムの中でも学び得るものが多かったと評価している。ただ、「養護教諭または養護教諭の免許を有する保育者としての個性をみがくために、探求したいテーマ（生涯にわたる課題）を持つことができる」という主題については、本学の建学の精神のもと、社会における今後の学びに期待し、養護教諭として、また養護教諭の免許を有した保育者としての成長を願っている。

養護コース 授業評価アンケート（2年後期）



◆1 年次前期（小学校教諭免許関連科目）

アンケート集計結果より 13 項目の全体平均は、4 点満点中 3.6 点であった。

最も高い評価項目は、①「この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」であり、3.8 点である。次に高い項目は、6 項目あり、④「この授業得学ぶ内容の意義や必要性を十分に理解できましたか」3.7 点⑥「この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」3.7 点、⑦「実際の授業が、シラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」3.7 点、⑨「授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」3.7 点⑪「教員の説明が、わかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったとおもいますか」3.7 点⑫「教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役立ったと思いますか」3.7 点であった。

最も評価が低い項目は、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」1.8 点であり、次に低い項目は 2 項目あり、⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」3.5 点、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」であり、3.5 点であった。

その他の項目は、3.6 点が 3 項目であった。

また、共通科目（教育原理、教育経営論）については、⑤「この授業の到達目標を意識しながら授業を受けることができましたか」3.35 点で全体平均 3.6 点より 0.25 点低く、⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」3.14 点で全体平均 3.5 点より、0.36 点低く、同じく、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」は 3.14 点で全体平均 3.5 点より、0.36 点低かった。

伸展科目（国語、社会、算数、英語）の平均値は、3.9 点と高く、13 項目の全ての科目で、全体平均の数値より高くなっている。また、13 項目全てで、教養科目、共通科目の数値より高くなっている。伸展科目 13 項目の中では、最も低い値が、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」であるが、3.76 点であり、この⑩についても、教養科目 3.54 点、共通科目 3.14 点よりも高い数値となっている。

②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、保育士、幼稚園、養護の各コースと比較すると共通科目は 1.75 時間で、最も授業時間外の学習の時間が少なく、一方、伸展科目では、小学校 2.33 時間と養護 2.35 時間に次いで多かった。

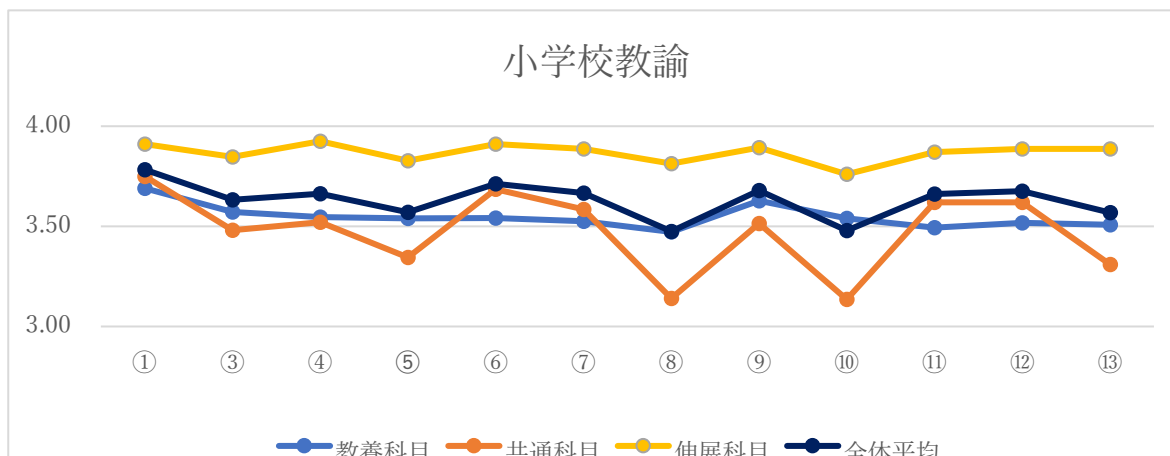
【成果と課題】

前期 1 年生の 13 項目の中で、全項目の平均値 3.6 点より平均値が 3.5 点と低かったのが、⑧と⑩であった。⑧については、特に教養科目が 3.47 点、共通科目（教育原理、教育経営論）が 3.14 点と低くなっている。このことを改善するためには、学生にシラバスを意識させて、毎時

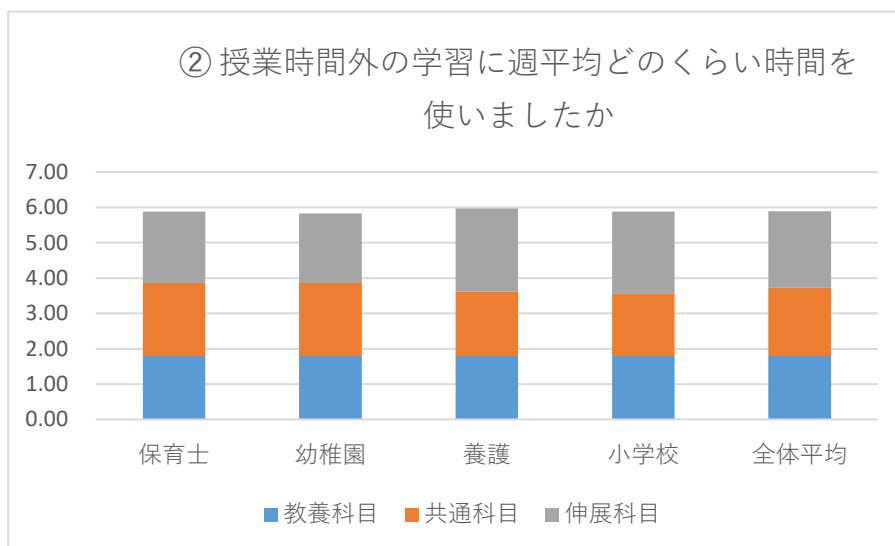
間の授業の到達目標を学生に示し、達成できるようなワークシートや振り返りシートの活用を工夫するということが大切である。また、演習形式で、アクティブラーニングを意識させ、主体的で対話的な深い学びになるようなK J 法等の思考ツールを使用してのグループワークなどを取り入れて、相互の考えの交流を通して、実践的な指導力が身につくようにしていくようにし、学生にとって楽しい授業とを感じる授業を工夫する。

また、⑩については、特に、共通科目（教育原理、教育経営論）が 3.14 点と低くなっている。授業内容が難しいと感じることがないように、授業の初めにシラバスについて説明し、この科目のゴールを明確に示しておくことが大切である。また、前時授業の振り返りと本時授業に自己評価を取り入れることやスモールステップで個々の理解度を把握しながら授業を進めていくなど学生が理解しやすいように多様な指導の工夫に努めることが大切である。

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.69	3.57	3.55	3.54	3.54	3.53	3.47	3.63	3.54	3.49	3.52	3.51	3.5
共通科目	3.75	3.48	3.52	3.35	3.69	3.59	3.14	3.52	3.14	3.62	3.62	3.31	3.5
伸展科目	3.91	3.85	3.93	3.83	3.91	3.89	3.81	3.89	3.76	3.87	3.89	3.89	3.9
全体平均	3.8	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7	3.5	3.7	3.5	3.7	3.7	3.6	3.6



②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	1.80	2.06	2.02
幼稚園	1.80	2.06	1.97
養護	1.80	1.82	2.35
小学校	1.80	1.75	2.33
全体平均	1.80	1.92	2.17



◆1 年次後期

アンケート集計結果より 13 項目の全体平均は、4 点満点中 3.7 点であった。

最も高い評価項目は、3 項目あり、①「この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」3.8 点④「この授業で学ぶ内容の意義や必要性を十分に理解できましたか」3.8 点、⑨「授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」3.8 点であった。次に③「この授業にどのくらい主体的・積極的に取り組むことができましたか」3.7 点、⑤「この授業の到達目標を意識しながら授業を受けることができましたか」3.7 点、⑥「この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」3.7 点、⑦「実際の授業が、シラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」3.7 点⑫「教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役立ったと思いますか」3.7 点であった。

評価が最も低かったのは、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」2.1 点であった。次に⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」3.6 点、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」3.6 点、⑪「教員の説明がわかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」3.6 点⑬「この授業にわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」3.6 点であった。②以外では、全ての項目が 3.8 点、3.7 点、3.6 点と概ね高い評価となっている。

また、共通科目（発達心理学、教育課程論、教育の方法と技術）については、最も高い項目は、①「この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」4.0 点⑨「授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」4.0 点であった。最も低い項目は、2 項目あり、⑦「実際の授業が、シラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」3.57 点⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」3.57 点であった。

伸展科目（国語科指導法、社会科指導法、算数科指導法、理科、理科指導法）については、最も高い項目は、④「この授業で学ぶ内容の意義や必要性を十分に理解できましたか」3.86 点であり、最も低い項目は、⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」3.54 点であった。

②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、保育士、幼稚園、養護の各コースと比較すると教養科目 2.10 時間、共通科目は 2.22 時間、伸展科目 2.60 時間で他のコースより多かった。

【成果と課題】

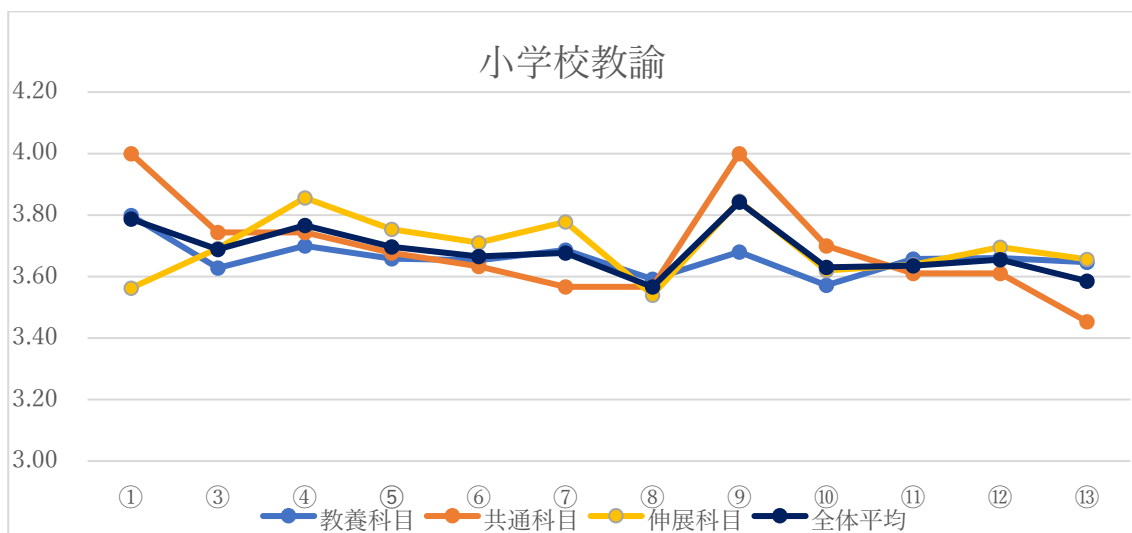
最も低い評価であった⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」3.6 点、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」3.6 点、⑪「教員の説明がわかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」3.6 点については、後期は、各教科等の指導法の科目が集中していて、パワーポイントによる発

表資料作成、Word での指導案作成、模擬授業等の実践的な指導力を養成する科目のために、授業内容のレベルの高いと感じ、授業についていくことが難しいと感じている学生が存在する。しかしながら、レベルを落とすと学生の自己評価は高くなるが、小学校教育実習に行ったり、教職に就いたりしてから各教科等の指導法について、学生自身が高い壁を感じるようになるので、学生の理解を促す授業改善を担当教員が行っているので、3.6 点という高い評価点を維持できたと考える。

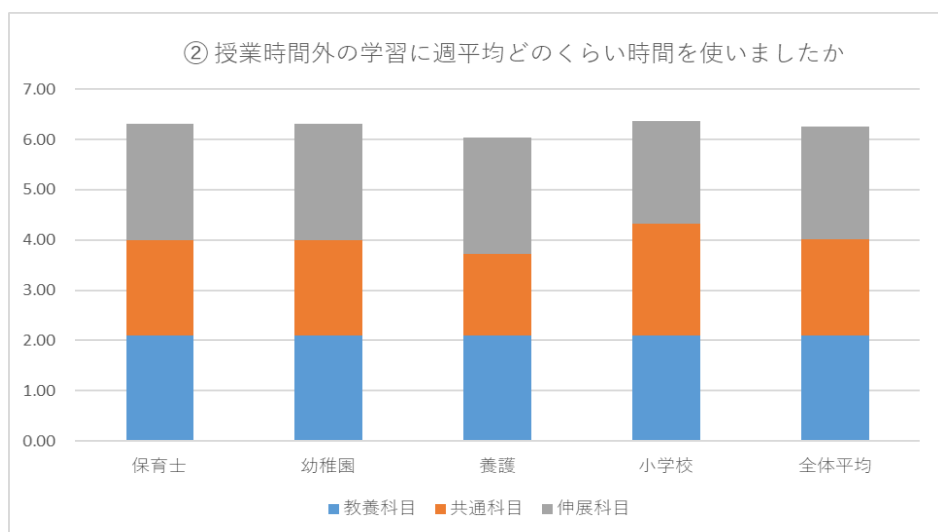
学生の理解度をスモールステップで把握しながら、授業内容を検討し、アクティブラーニングで対話活動、ディベートやパネルディスカッション、K J 法などの思考ツールを取り入れたグループワークなどを取り入れ、相互の考えの交流・共有を通して、学生の思考を引き出し、実践的な指導力が身につくようにするとともに、学生にとって楽しい授業と感じる授業の工夫を継続していくことが重要である。また、模擬授業では、指導案作成段階から、グループでの話し合いを取り入れ、模擬授業においても司会者を中心に模擬授業における振り返りをグループで行い、改善点や良いところを交流できるようにして、全員が積極的に参加できる工夫をする。シラバスを常に意識させて、学生自身が主体的に取り組んでいることを意識させるようにする。学生の実態を考慮して、授業の難易度が適切であるようにする。毎時間、質問の時間を設定し、学生に寄り添って授業を進めていくなどの授業改善を継続していく。

②については、後期学修で、担当教員が、自ら進んで、予習・復習をすることができるように努めたことで一部の学生間では、改善しつつある。このことが、全ての学生への改善となるよう、地道な取り組みが必要である。

①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
3.80	3.63	3.70	3.66	3.65	3.69	3.59	3.68	3.57	3.66	3.66	3.65	3.7
4.00	3.74	3.74	3.68	3.63	3.57	3.57	4.00	3.70	3.61	3.61	3.45	3.7
3.56	3.69	3.86	3.75	3.71	3.78	3.54	3.85	3.62	3.64	3.70	3.66	3.7
3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.8	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7



②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	2.10	1.89	2.32
幼稚園	2.10	1.89	2.32
養護	2.10	1.63	2.02
小学校	2.10	2.22	2.60
全体平均	2.10	1.91	2.32



◆ 2年次前期

アンケート集計結果より 13 項目の全体平均は、4 点満点中 3.5 点であった。

最も高い評価項目は 4 項目あり、①「この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」であり、3.6 点、⑥「この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」3.6 点、⑦「実際の授業が、シラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」3.6 点、⑪「教員の説明が、わかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったとおもいますか」3.6 点であった。次に高い項目が 3 項目あり、⑨「授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」3.5 点、⑫「教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役立ったと思いますか」3.5 点、⑬「この授業にわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」3.5 点であった。

最も評価が低い項目は 2 項目あり、⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」3.2 点、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」であり、3.2 点であった。

その他の項目は、3.4 点が 2 項目であった。

また、共通科目については、⑪「教員の説明が、わかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったとおもいますか」と⑬「この授業にわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」3.84 点で全体平均 3.5 点より、0.34 高かった。また、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」は 2.84 点で全体平均 3.5 点より、0.66 点低かった。

伸展科目については、⑥「この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」3.61 点で、全体平均 3.4 点より、0.21 点高かった。また、⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」2.91 点で全体平均 3.4 点より、0.49 点低かった。

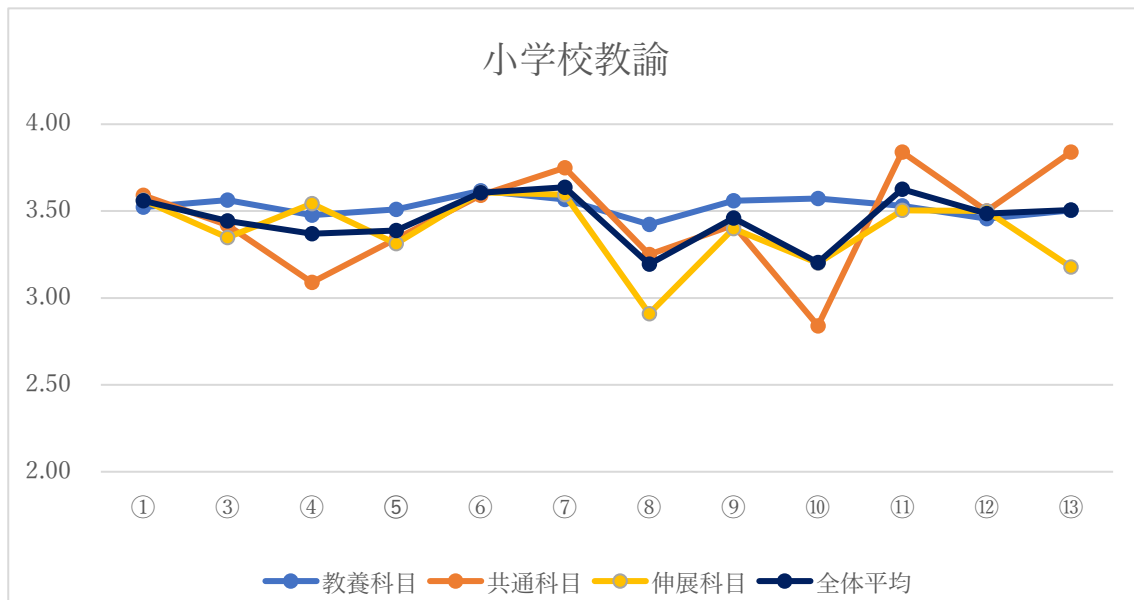
②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、保育士、幼稚園、養護の各コースと比較すると共通科目は同一時間（2.35）で、共通科目は、全体平均 1.98 時間より 0.23 時間低く、1.75 時間であった。伸展科目では、小学校 1.93 時間で全体平均 2.27 時間より 0.34 時間少なかった。

【成果と課題】

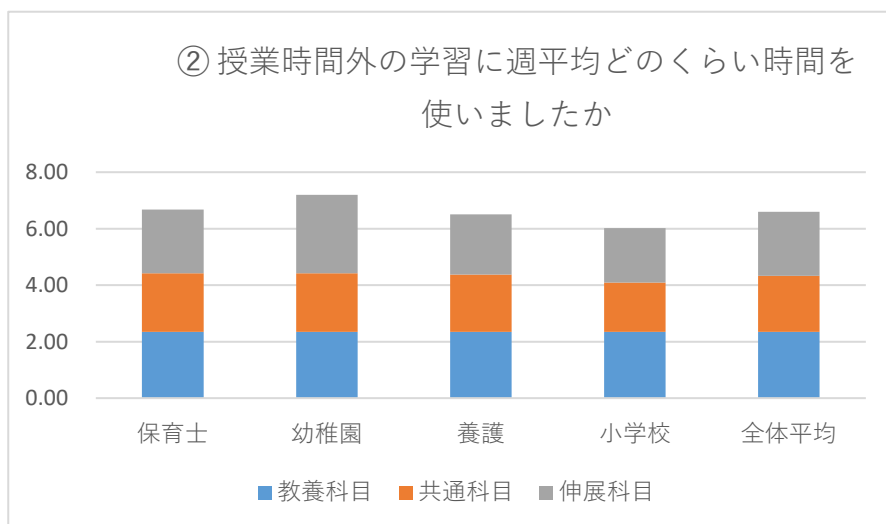
2 年生の 13 項目の中で、平均値が 3.2 点と低かったのが、⑧と⑩であった。⑧の到達目標に近づくことについては、困難さを感じている学生がいることを示している。特に、伸展科目（子ども家庭支援論、体育、体育指導法）について顕著に評価の低さとなって表れていた。このことを改善するためには、学生にシラバスを意識させて、毎時間の授業の到達目標を学生に示し、達成できるようなワークシートや振り返りシートの活用を工夫するということが大切である。また、演習形式で、アクティブラーニングを意識させ、主体的で対話的な深い学びになるような KJ 法等の思考ツールを使用してのグループワークなどを取り入れて、相互の考えの交流を通して、実践的な指導力が身につくようにしていくようにし、学生にとって楽しい授業とを感じる授業を工夫することが大切である。

また、⑩の学ぶ内容の難しさについては、特に共通科目（教職概論、道徳理論と指導法）について顕著に評価の低さとなって表れていた。このことを改善するためには、授業内容が難しいと感じることがないように、授業の初めにシラバスについて説明し、この科目のゴールを明確に示しておくことが大切である。また、前時授業の振り返りと本時授業に自己評価を取り入れることやスモールステップで個々の理解度を把握しながら授業を進めていくなど学生が理解しやすいように多様な指導の工夫に努めることが大切である。

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.52	3.56	3.48	3.51	3.62	3.57	3.42	3.56	3.57	3.53	3.46	3.50	3.5
共通科目	3.59	3.42	3.09	3.34	3.59	3.75	3.25	3.42	2.84	3.84	3.50	3.84	3.5
伸展科目	3.56	3.35	3.54	3.31	3.61	3.60	2.91	3.40	3.20	3.51	3.50	3.18	3.4
全体平均	3.6	3.4	3.4	3.4	3.6	3.6	3.2	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.5



②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	2.35	2.08	2.25
幼稚園	2.35	2.08	2.77
養護	2.35	2.03	2.14
小学校	2.35	1.75	1.93
全体平均	2.35	1.98	2.27



◆ 2 年次後期

アンケート集計結果より 13 項目の全体平均は、4 点満点中 3.5 点であった。

最も高い評価項目は、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」3.7 点、であった。次に⑥「この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」3.6 点⑨「授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」3.6 点、⑪「教員の説明がわかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」3.6 点であった。その次に⑤「この授業の到達目標を意識しながら授業を受けることができましたか」3.5 点⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」3.5 点であった。その次は項目あり、③「この授業にどのくらい主体的・積極的に取り組むことができましたか」3.4 点④「この授業で学ぶ内容の意義や必要性を十分に理解できましたか」3.4 点⑦「実際の授業がシラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」3.4 点⑬「この授業にわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」3.4 点であった。

最も評価が低い項目は、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」1.68 で

あり、次に低かったのは、①「この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」3.3 点であった。

また、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が、1.68 時間、共通科目が 1.93 時間、伸展科目が 1.97 時間であった。

また、共通科目（特別支援教育、特別活動及び総合的な学習の時間、教育相談、教職実践演習）については、一番高い評価が⑫「教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役立ったと思いますか」で 3.59 点であった。その次に高い評価が、⑥「この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」と⑪「教員の説明が、わかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったとおもいますか」であり、共に 3.55 点であった。最も低い評価は、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」が 1.93 点であった。その次に低い評価が、①「この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」3.04 点であった。

【成果と課題】

①については、2 年生後期になり、卒業を控え、就職活動等で欠席する日が増えているために自己評価が低くなっている。

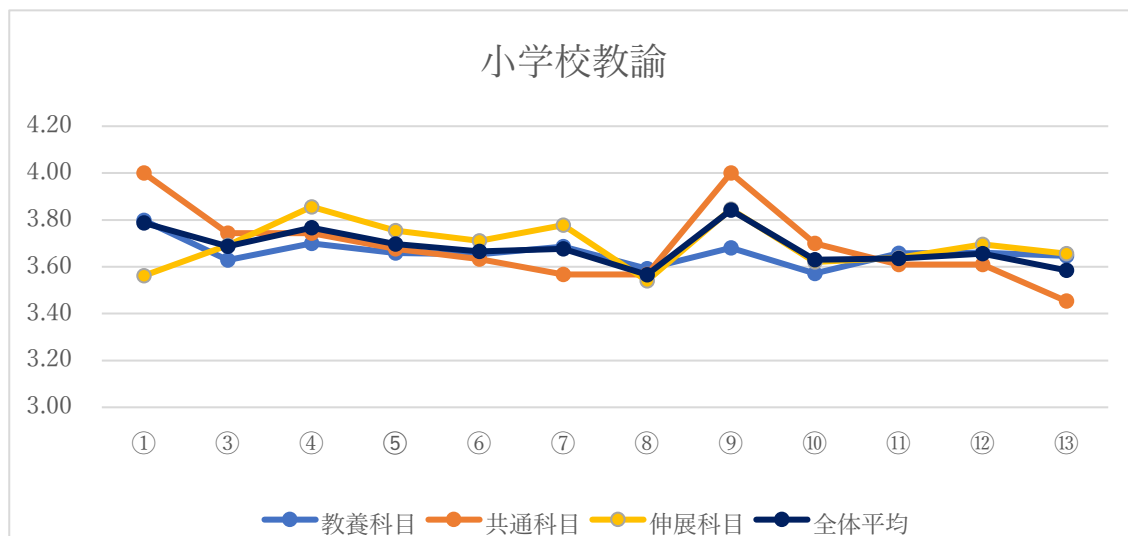
②については、卒業後、教職に就いても研修や教材研究に主体的に熱意を持って取り組むことができる人材を育成することにつながるため、今後も重点課題として取り組む必要がある。学修は、授業だけでなく予習―授業―復習といった、一連のサイクルを通じて深められるものであり、生涯にわたって効果的に学び続けていく上では、そうしたサイクルで教材研究等自己研鑽し実践的指導力を身に付けていく必要がある。授業外でも学修に取り組む中で、自律性や学修スキルが向上する。大学教育でも、事前準備や事後の学修も含めて単位認定を行うようになっており（中央教育審議会、2012）、授業だけでなく、予習や復習などの授業外学修を通じて、学修スキルを

育成していくことが目指されている。次回の授業に向けて予習を行うことは、授業での理解を深める上で非常に重要であり、授業内容と関連する知識が事前に活性化されることで、既有知識と新たな情報を関連づけ、疑問点を把握しながら授業に参加できるようになることが可能である。今後も継続的な取り組みを行う。

本学では、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材育成は、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要であると考え、取り組んできている。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換を行っていて、学生の主体的な学修を促す質の高い教育を目指している。

また、アクティブラーニングの実現に向けては、次の3つの視点で授業改善を行っている。授業に見通しを持って粘り強く取り組み、学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができているかという視点、自己の考えを広め深める「対話的な学び」ができているかという視点、各教科等の特筆に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出だして解決策を考えさせたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現しているかという視点である。

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.80	3.63	3.70	3.66	3.65	3.69	3.59	3.68	3.57	3.66	3.66	3.65	3.7
共通科目	4.00	3.74	3.74	3.68	3.63	3.57	3.57	4.00	3.70	3.61	3.61	3.45	3.7
伸展科目	3.56	3.69	3.86	3.75	3.71	3.78	3.54	3.85	3.62	3.64	3.70	3.66	3.7
全体平均	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.6	3.8	3.6	3.6	3.7	3.6	3.7



②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	2.10	1.89	2.32
幼稚園	2.10	1.89	2.32
養護	2.10	1.63	2.02
小学校	2.10	2.22	2.60
全体平均	2.10	1.91	2.32

